信州の名桜、写真集に

大和の写真紀行作家 大貫茂さんが出版

大和市在住の写真紀行作家で日本文芸家協会会員の大貫茂さん(79)が、全国一の名桜(めいおう)の宝庫、長野県の桜を撮影した写真集「信濃の一本桜」を出版した。大貫さんは「一人でも多くの目に触れて、長野県観光の一助になれば幸い」と語っている。

同県には国や県などが指定した天然記念物の桜が約120本あり、2位の福島県(約90本)を大きく上回る。掲載した桜は、昨年の撮影が大半で、写真は南から北へ桜前線が駆け上がる順に紹介されている。

大貫さんは40年以上にわたり、全国各地の名桜の撮影に力を注いできた。桜の開花は短く、春は天候不順の日が多いことから、毎年の撮影計画は半分も進めば上出来。撮り残した桜は、夏から秋にかけて翌年の計画を練り、「闘志を燃やしていた」という。

ところが昨年3月に東日本大震災が発生し、前年の暮れに立てた撮影計画を大幅に変えた。岩手、宮城、福島3県には津波被害を受けた名桜もあり、東北地方の撮影計画は全て中止した。どこで撮影するか考え、「名桜全国一の長野県に絞ろう」と決めたという。

写真集には、飯田市郊外の愛宕神社にある樹齢800年の江戸彼岸桜「清秀桜」(高さ約8メートル、幹回り約4メートル)をはじめ、隠れた名桜の宝庫である木曽地方の「しだれ桜」などが紹介されている。

それぞれの写真には所在地や名称の由来、伝説なども記載され、ガイドブックとしても活用できる。A4判オールカラー、152ページで1800円。問い合わせは信濃毎日新聞社出版部(電話026・236・3377)。

【長真一】

長野県内の名桜を紹介する写真集「信濃の一本桜」